

平成27年度第2回さぬき市総合教育会議議事録

1 開催日時	平成27年7月28日(火) 開会 午後1時00分 閉会 午後3時10分		
2 場所	さぬき市教育委員会会議室		
3 出席者	市長	大山 茂樹	
	教育委員会	細川 哲士 徳田 二三男 日向 和加子 得丸 慶子 岡 裕子 安藤 正倫	
	欠席者	なし	
	事務局	総務部長	穴吹 靖昭
		教育部長	和田 浩二
		教育総務課長	間島 憲仁
		教育総務課副主幹	富田 和希
その他説明等のため出席した者	なし		
4 会議に付した協議・調整事項	(1) 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について		
5 特記事項	なし		
6 会議内容	<p>開会</p> <p>教育部長 定刻がまいりましたので、平成27年度第2回さぬき市総合教育会議を開会したいと思います。開会に当たり、市長、教育委員会委員長から御挨拶をお願いします。</p> <p>市長挨拶</p> <p>市長 (挨拶)</p> <p>教育委員会委員長挨拶</p> <p>委員長 (挨拶)</p> <p>協議・調整事項</p> <p>教育部長 協議・調整事項について、ここからの議事進行は、市長をお願いします。</p> <p>市長 では、定めに従い、配布の次第に沿い、進めていきます。 これから、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」という難しいものを策定していきますが、あまり肩肘を張らず、日頃考えていることを分かりやすい形で市民や子どもたちに示すことができればと思っています。 まずは、今回の議論の参考とするため、国の第2期教育振興基本計画、市の</p>		

	教育振興基本計画、市の第2次総合計画前期基本計画の中に記載された内容を比較した資料を作成しましたので、資料1について、事務局は説明してください。
事務局	(資料1 教育に関する計画の記載事項の比較表について説明した。)
市長	この比較表に関し、国の計画に掲げられていながら市の計画には掲げていないもの、逆に、国の計画には書かれていないもので市の計画に掲げているという点に注目した何か特徴的なことについて、事務局は補足して説明してください。
事務局	<p>保幼小の連携や小中一貫教育をはじめとした子どもの成長に応じた柔軟な教育システムに関すること、外国にルーツを持つ子どもに対する教育に関すること、キャリア教育や職業教育に関すること、英語をはじめとした外国語教育の強化に関することについては、国の計画には記載されていて、市の計画には触れていないものです。なお、国の第2次計画は、市の教育振興基本計画より新しいので、より直近の社会背景が反映されていることによるものが、この違いの要因ではないかと思われます。</p> <p>一方、学校再編を軸にした施設整備や教育環境の整備・充実に関すること、文化・観光の要素をミックスしたスポーツ事業をはじめとした生涯スポーツに関することについては、国の計画にはないものの、市の計画では取り上げているものです。</p>
市長	<p>現在の地方においては、国が何かの計画を定めたとき、それに引きずられるような形の計画になりがちですが、我が市の教育振興計画や総合計画基本計画も、その意味ではオーソドックスな計画と言えると思います。</p> <p>この際、国の計画や、教育委員会にとっては市の総合計画前期基本計画も含め、それらをあまり意識せず、市の教育振興基本計画から考えられる今後の教育大綱の留意点や大事なことについて、各委員からの発言をお願いします。</p>
教育委員	<p>現在の学校教育は、いわゆる序列化の色彩が強く、画一性を求める傾向がどうしても強くなっています。今回の大綱の策定に当たっては、「学校での学びがふるさとさぬき市の土台に根付く」といったものがどれだけ盛り込まれるのかが大事になってくると考えています。</p> <p>「村を育てる学力」という著名な本があります。いわゆる“村を育てる教育”という視点から大綱を見ることが妥当ではないかと考えています。</p> <p>「読書のまち さぬき市」の創造と各学校の「特色ある学校教育活動」をリンクさせて取り組めば、子どもたちの1つの基礎的な力が身に付くのではないかと思います。</p> <p>教育委員会が所管する「放課後子ども教室」と市長が所管する「放課後児童クラブ」は、いずれも「子育て支援」の一環としてあるものであり、幼稚園と保育所も同様の問題を抱えているように、市長部局が行う子育て支援が、経済的支援や育児支援など多岐にわたっている中で、その中の教育に関する部分についてどう考えるべきかを議論できればと思っています。</p> <p>ふるさと教育に関して、雨滝自然科学館や歴史民俗資料館には、良い展示物</p>

	<p>が多くあるにもかかわらず、交通の不便さから、学校教育の中でそれらを十分に取り込めていない現状があります。交通手段に対する支援があれば、今以上にふるさとを学ぶことができるのではないかと思います。</p> <p>公民館や体育施設は、生涯学習の拠点として大変有効なものであって、いつでも、だれでも、どこでも学べるとの視点からも、生涯学習拠点施設の整備は必要であると思います。</p> <p>「おせったいの心」に関し、へんろ88ウォークを引き続き継続するとともに、小学校の総合的な学習の柱の1つに「おせったいの心」を置き、この観点に基づいた各学校での主体的な取組を求めることも必要ではないかと思います。</p> <p>さぬき市の将来に向けてのチャレンジする心を育てる意味で、市内には小中学校のほか高校が4校、大学が1校あることから、小学校高学年から大学生までの児童・生徒・学生を集めて、「未来会議」を開催すれば、さぬき市の将来についての意見を汲み取ることができるとともに、郷土に対する興味や関心もわくのではないかと思います。</p>
<p>教育委員</p>	<p>基本的には、さぬき市教育振興基本計画をベースに考えています。</p> <p>自立して生きる力を持つ人を育てるという観点では、幼児教育が非常に大事だと思います。幼い頃に大事にされていない子どもは、大きくなって問題行動を起こすとの指摘もあることから、保育所・幼稚園の連携を考える必要があります。津田中跡地での子ども園構想を実現させることにより、市内外への発信基地となればよいのではないかと思います。</p> <p>これからのグローバル社会に向けて、やはり英語教育の充実が必要だと考えています。</p> <p>学校の統合により、地域住民は、学校が物理的・心理的に遠くなったと感じています。授業等で地域人材の協力を得ることはよくあるが、学校の取組の現状を学校側から地域に発信する必要もあり、双方向の交流が大事だと思います。</p> <p>自分で課題を見つけ、自らそれを解決する主体的な取組を学ぶ「アクティブラーニング」が、子どもに必要だと思います。また、特別支援教育を「特別」に分けるのではなく、共に育つという「インクルーシブ教育」が、これからは大切だと思います。これらは最近社会的に注目されているものでもあります。</p> <p>現在、読書活動に力を入れているので、市内の2つの図書館のますますの連携が必要になります。</p> <p>ふるさとを愛する人を育てるという観点から、市内の古墳等文化遺産の教材化、特に歴史教材がたくさんあるので、それらを授業の中に取り入れて、積極的に子どもに教える必要があると思います。また、津田古墳群が国指定史跡となったのを機会に、旧鶴羽小をビジターセンターとして整備し、ここに来ればさぬき市の古墳時代の様子が子どもだけでなく大人も学べるというものにすれば、地域の活性化にもつながるのではないかと考えています。</p> <p>いじめや差別を許さない人を育てるということも重要で、人権教育を大切にしていきたいと思います。その中で、「おせったいの心」や道徳教育が柱にな</p>

	<p>と思います。</p> <p>心身ともにたくましい人を育てるという観点では、最近の子どもは、授業等のプールで泳ぐ経験をしているはずなのに、中学校卒業までに泳げるようになっていない子どもが少なくないという声を学校から聞きます。水難事故をはじめ様々な生活場面を考えると、さぬき市は海に面しているまちでもあり、例えば、泳ぎ方は問いませんが500メートルは全員が泳げるようになるといった取組も必要ではないかと思えます。</p>
<p>教育委員</p>	<p>市の総合計画前期基本計画と比較して、市の教育振興基本計画では「子育て支援」の領域に関することが希薄であるような気がします。それは、教育委員会としては、幼稚園からの教育ということになり、やむを得ない部分もあります。とはいえ、例えば「放課後児童クラブ」では通う対象は学童であるが子育て支援課が所管し、「学校支援ボランティア」は教育委員会所管の取組であるが保育所にも出向くことがあるとも聞きます。このように双方に重なり合う部分があり、大綱の策定に当たっては、この重なる部分について、市長と教育委員会の考えのマッチングができればと期待しています。</p> <p>物質的には恵まれた豊かな社会になったが、子どもたちの心が本当に豊かになっているのかという気もしています。さぬき市の良さやさぬき市ならではの取組で、未来に向かってたくましく生きていく人づくりをしていきたいと思えます。</p> <p>自分のこれまでの活動経験から、食育が非常に大事であると認識しています。子どもだけでなく保護者、特に未就学児を持つ親、そして地域の大人に至るまで、それを広めていく活動を市として力を入れて取り組んではどうかと思います。このことは、単に身体の高齢の面だけでなく、食事の際のマナー習得や、調理作業を通した五感への刺激や処理能力の向上につながるもので、有効な教育の1つであると思えます。例えば、さぬき市独自の「新郷土料理みんな考えよう・作ろう・食べよう」といったプロジェクトが実践できればよいのではないかと思います。</p> <p>さぬき市では「ふるさと学習」や「読書活動」、「図書館教育」に力を入れているが、それぞれ単独で捉えるのではなく、例えば、さぬき市の自然や偉人等の素材を使った創作絵本を作ったり、さぬき市にちなんだ俳句・写生大会を催したりするなど、子どもから大人までが関わられるような取組ができれば良いと思えます。</p> <p>障害を持つ方から公民館活動に参加したいができないという声を聞いたことがあります。施設のバリアフリー化が進んでいないことが大きな原因ですが、それは単に近くの誰かが介助すれば解決するというものではありません。できれば自分の力で参加したいという意欲を持っていて、人の手を借りないで参加できないのであれば…と一歩を踏み出せないでいるものです。このような心を理解し、それに配慮した施設整備が重要であり、そうした整備は、内容の充実にもつながるはずだと思います。</p> <p>地区運動会など旧町を単位としたスポーツの催し物はあるが、市全体を巻き込んだ子どもも障害を持つ者も高齢者もみんなが一同に集まれる一大スポーツ</p>

	<p>イベントが、数年に一度のものでよいので開催できればよいと思います。また、例えば体操や踊りといったもので、保育所・幼稚園・学校・職場などで市民みんなが健康づくりに対する同じことに取り組み、その共通体験が市としての一体感の醸成にもつながるのではないかと思います。</p>
<p>教育委員</p>	<p>自分がさぬき市で生まれ育ったわけではなく、仕事の都合によりさぬき市で生活するようになったことから、それまでの外での経験とさぬき市での経験を比較しながら、さぬき市として強調した方がよいと思うことを中心に検討してみました。</p> <p>近年の核家族化、共働き家庭の増加や経済的な問題で、家庭での教育力が低下していることを実感しています。それを補うため、市が1つの家族のように子どもたちの教育をサポートできるようになればよいのではないかと思います、6点ほど考えてみました。</p> <p>家庭での教育力を高めるため、親育ちプログラムの充実や、幼小中の異校種間の親同士において、例えばスマホの問題をはじめ幼稚園のときから知っておきたいことなど、先輩保護者からのアドバイスが得られるといった情報交換の場を提供することができればよいのではないかと思います。</p> <p>家庭学習を支援するため、長期休業期間中や定期試験前に学校の教室を開放し、子どもたちに勉強する場を提供してはどうかと思います。平成22年頃の志度小学校で、土曜日に、香川大学の教員を目指している学生に来てもらい、子どもたちの勉強をみてもらうという「源内寺子屋」という取組があり、それに参加したいという子どもたちが想像以上に多く、驚いたという経験があります。塾やスポーツ少年団等で土曜日には子どもは集まらないのではないかと思います。思っていたところ、改めて、このような取組のニーズの高さを認識したところ。経済的事情で塾に行かせられないという家庭も多いと聞くので、家庭学習を支援するような場があるとよいと思います。</p> <p>子どもたちと接する中で感じるのは、将来自分がどういう場で活躍したいかというビジョンを持った子が少ないことです。高校進学の際に現状の成績で行ける学校を選択するといった自分の将来の目標のために一生懸命勉強しようという姿勢が見られない子が多い印象です。将来への希望を持たせるためにも、勉強する意欲を持たせるためにも、自分がどういう仕事をしたいかを考える機会を与えるという意味で、以前、小学校で、様々な職業の保護者や地域の方に自分の職業のことや子どもの頃の出来事が今の仕事にも役立っているといった内容のショートスピーチを行い、子どもからの質問にプロフェッショナルが答えるという行事を経験したことがあります。地元の方とのつながりも密になる上に、子どもも様々な職業の話を生で聞くことができ、その職業の存在を知り、職業に対する目標が持てるのではないかと思います。</p> <p>読書活動については既に推進しているところですが、もっと身近なものにするために、本のバザーや中学生による幼稚園・保育所での読み聞かせをもっと頻繁に行ってはどうかと思います。</p> <p>教員が、授業よりも保護者への対応や子どものトラブルに多くの時間を割き、少しのことでも自宅に訪問するなど多忙であるのを目の当たりにし、教員</p>

	<p>の事務負担を軽減させるため、事務員や監理員の増員や学校支援ボランティアの積極的利用により、教員の子どもと向き合う時間を確保できるようにすべきと思います。</p> <p>さぬき市の自然を利用した子ども会やPTAが主催するキャンプなどをもっとバックアップする必要があると思います。都会ではわざわざ高いお金を払ってでもキャンプに行ったり、混雑した中でバーベキューをしたりしています。さぬき市にはこれだけたくさんの自然があり、さほど混雑していないキャンプ場もあり、これらをもっと生かして、子どもがアウトドアに親しみが持てるような取組が必要だと思います。</p>
<p>教育委員</p>	<p>人は、一人ずつ成長の度合いが異なり、うさぎもいれば亀もいます。それぞれに抱える家庭環境も違えば、性格や心身の状態も違います。それを親だけが、又は学校だけが頑張るのではなく、地域や全てのその子を取り巻く環境で育て、幼・小・中・高と、焦らず個々の成長に合わせた階段を上って欲しいとの願いから、「親・地域・学校が支え合い、子どもの未来にたすきをつなぐ～一人一人を大切にする お接待の心あふれるまちづくり～」というフレーズを考えてみました。</p> <p>学校訪問を通して、家庭教育がとても大事であることを痛感しています。</p> <p>学校が企画した行事に保護者が参加するのではなく、保護者が主体となって行事を企画してほしいです。それに地域が関わり、異年齢構成にすることで親同士での交流を促進してほしい。例えば、ふるさと探検や親の特技を生かしたサークル活動や幼稚園だけでなく小・中学校でのおまつりなどにより、親子のふれあいの場ができればと思います。</p> <p>しつけは家庭によって様々ですが、子どもが自主的にしたいと思えるしつけというものを、実際に子育てに悩んだ先輩から話を聞くことができればよいと思います。また、子育てに関することだけでなく、親が抱える様々な悩みを相談できる場を設けてはどうかと思います。</p> <p>保護者にも様々な職業の方がいることから、その職業に就いた理由、良かったことや失敗談、社会人として気を付けるべきことなどを聞く場を設け、子どもの将来の職業選択の参考になればよいと思います。大人の苦労話を聞くことで、親への感謝にもつながればよいと思います。</p> <p>夏休み等を利用して親子一緒に子どもの苦手教科の授業を受けるなどにより、二人三脚で克服にがんばるとともに、親は子どもの頃を思い出し、子どもの気持ちを理解する機会として、親子勉強教室といった取組もよいのではないかと思います。</p> <p>保護者も今更聞けないマナーなども含めて、子どもと一緒に学ぶ礼儀・マナー教室もあってよいのではないかと思います。</p> <p>「げんない学園」は、高校生たちが成長する場であったと実感しています。これを中学生や小学生向けに考えたときに、地域のお店で商品販売を経験することがよいのではないかと思います。「職場体験」では指示待ちで何をしてよいかわからないという子どもが少なくないですが、「商品販売」であれば、商品に対する責任、接客、収支、展示の仕方、クレーム処理、準備段階からのお</p>

	<p>互いの報告・連絡・相談といったことを通して、大切なことが学べる場となるのではないかと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>人が一生で関わる「教育」は、学校教育と社会教育とに分かれます。</p> <p>さぬき市には大学までであることから、22歳までを「学校教育」ととらえた場合に、さぬき市ではとてもよい「学校教育」が受けられると評価されることを目指すべきだと思います。そのため、義務教育はもちろん幼児教育のますますの充実や、高校・大学での市と連携した教育の実践が必要だと思います。</p> <p>また、幼・小・中において一貫性を持って教育する必要があるのは、読書教育と人権教育です。これらは、いじめの防止等につながるのではないかと考えています。市を上げて取り組む教育の柱には、読書教育と人権教育を据えるべきだと思います。</p> <p>また、多様性を育てる教育も必要ではないかと思います。そのためには、様々な社会教育の場に子どもを触れさせ、多様な能力を育成する教育機関があつてよいのではないかと思います。</p> <p>さらに、ふるさとへの愛やふるさとを自慢できる心を育てる取組が必要です。現在、小学校の副読本に平賀源内を取り上げていますが、これを他の旧町の偉人等も取り上げて学習させたいと思います。また、さぬき市には、県内ではさぬき市の東西どちらに行っても見られず、さぬき市にだけあるというような古墳があり、これは、さぬき市が誇って自慢できる歴史的文化遺産です。ふるさとを自慢できる自信を持って、外を見ることが出来る人物を育てる教育が大事であり、子どもから大人まで必要な教育だと思います。さらには、それを受け継ぎ、伝えていくといった知の循環型社会を構築できればよいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>この短時間での発言にもかかわらず、教育委員の皆さんが日頃からからさぬき市の教育における様々なことを考えていることが十分に伝わってきました。</p> <p>ほぼ材料は出尽くしたのではないかと思います。</p> <p>私は教育に関しては素人ですが、「教育」には、いろんな切り口があると思います。例えば「～教育」といったときに、「学校教育」や、私も今後それが大事になるであろうと思う「家庭教育」があります。地域の教育も含んだ学校教育以外の「地域教育」なり「家庭教育」は「社会教育」とも言い、そういった「〇〇教育」ができるための環境整備をするのが、行政、市長部局の役割だと思っています。</p> <p>教員が多忙で本来の業務ができないというのであれば、それを支援する人を増やして環境を整え、その環境の中で教員や保護者が自分の役割を果たすための環境整備を市長部局が行うということ、今回の教育大綱を作成することになった背景だと思っています。これについては、様々な考え方があり、教育委員会が意思決定や責任体制が不明確なので、選挙で選ばれた市長を責任者にしておけば、責任を取らせやすいとか、お金の面でも予算調整権を持つ市長のほうがよいのではないかと指摘も事実かもしれませんが、一方で、みんなにとって大事な教育に対し、これまでは、その環境整備について市長部局、知事部局といった行政が、教員任せ、学校任せにしていたために、家庭教育がかつ</p>

	<p>てほど注目されなくなり、全ての人が平等で言いたいことを言うというのが自由で良い社会だという一部の曲がった考え方が広まったために、学校が家庭に、保護者に振り回されています。その保護者が自分の子どもを、幼い子どもは誰かがコントロールしないと危険な目に合ったり、自分の能力を發揮できなかったりするという良い意味でのコントロールができなくなっているのではないかと考えています。そのような中、教育といわれるものを上手にまとめた形にしたいと思います。</p> <p>多様な子どもたちを育てたいというのは、もちろん学校の中での多様性もありますが、自分の将来に対しての多様性を持つようなことを「教育」というものがどこまでできるのかという疑問を持っています。例えば、今の子どもたちは、将来の自分の人物像を描くことに関し、家庭の日常生活の親子のやりとり中で親にどのような影響を受けているのか、他にどこでどのような影響を受けているのかという疑問を持っています。</p> <p>私たちは、戦後の国が大変な時で、親が子どもに手が回らない状況で育った世代であり、良い意味でも悪い意味でも子どもは自分で考えて育つしかありませんでした。もう少しその時に、よき指導者に恵まれていればもっとよい人間になっていたのかもしれないとも思いますが、自分で決めたことなので、その結果に対しても受け入れられるのです。自分の一生に対する多様な人がたくさんいるべきで、序列化して、画一化して、学校の成績というほん一部のことでその人の人生が決まるといえるのはおかしいのではないかと素人としての違和感があります。</p> <p>いじめについては、人権教育を通じて人を大事にする心を育てるということは、そのとおりだと思います。一方で、全国で起こっている事例を見ると、そのような悠長なことを言っていてよいのかとも思います。教育でどうにかすると言っている間に、現実には自分で命を失っている子どもが出てきていることに対して、私たちは具体的な答えを考えなければならないのではないかと考えるのです。誤解を恐れずに言うと、単に人権教育をするというだけでは現実のニーズに答えていないのではないかとさえ思うのです。</p> <p>社会に出た職業選択を含めた人間の生き方としての多様性の実現に対し、教育委員会や行政が、どのようにすればよいのか、そうすることが本当に可能かどうかの2点が、私自身の教育大綱を作成する際の大きな疑問点です。</p> <p>これまでの議論において、9割ぐらいのことは言い尽くされたように思います。表現の差はあるものの、基本的な大事なことは、共通認識として網羅されていると思います。</p> <p>広い意味での多様性を意識の面から変えていくことに対し、教育が関与できるのか、関与してよいものか、実現不可能なのかということと、いじめに対する理論的な答えではなく、緊急避難的に今私たちがすべきことは何かという2点について、意見を伺いたいと思います。</p>
<p>教育委員</p>	<p>教師の中には、「子どもは算数も国語も全てできなければならず、それができないのは教師である私が悪い」と悩む者がいます。いわゆる勉強ができなくても、絵を書くのが上手だったり、走るのが速かったりするなど個々の良いと</p>

	<p>ころを認め、褒めることが大事だということを、特に若年の教師に教えたことがあります。「絶対にこうでなければならない」という意識を、学校教育から排除していく必要があります。</p> <p>いじめについては、個人的にも関心があり、重要問題だと認識しています。人権教育が大事ですが、まずは、教師や大人が人権感覚を身に付けておくことが必要であり、それができていないと有事の時に間に合わないといったことが起こります。子どもが「死にたい」と思った時に、普通なら聞いたり相談したりする中で変調が分かるはずですが、最近の報道で知る事件などは、それができていません。特に、「あ、おかしいな」ということに、大人や教師がそれに気付く力を身に付けておくことが大事ではないかと思えます。子どもに「仲良くしなさい」とか「それは間違っている」と指導することも必要ですが、大人の中にも人権感覚を育てなければならない者もいます。ただ、大人にはなかなか指摘しづらいことも確かです。</p>
<p>市長</p>	<p>教育の中にいる人には気付きにくいことかもしれません。昔は、そういう少しのサインを見逃さないような仕組みがいっぱいあったはずで、それは家庭教育にあったと思います。例えば、昔は、沸かしたお湯が冷めないうちにということでしたが、子どもが祖父母や親と一緒に風呂に入っていました。そうすることで、親などが子どもの裸を見ることで、もし、あざができていればすぐに気付くというチャンスが、他にもたくさんあったように思います。今は、子どもも一人で入るようになり、中には親に見られたくない、例えばあざを見せないようにする子どももいるはずですが。そういったことは、学校の教育の中にあると、逆に分かりにくいのではないかと思います。99%の者がそういうこととは関係ないという集団環境の中だから、気付きにくいのではないかと考えたりもします。</p> <p>また、画一的でない先生として困るということもあるのではないのでしょうか。かつて、私は、お前だけ個性的なのは困る、クラスがまとまらないと言われたことがあります。先生も忙しく、いろんな個性を認めたいが、それを認めると手間暇が掛かるので、なかなかそれができにくいということであれば、それができる方法を考えなければならないのではないかと素人ながら考えているところです。</p> <p>この話をもう少し膨らませて議論できればと思います。</p>
<p>教育委員</p>	<p>小学校の教員をしていたことから、教え子たちの同窓会に呼ばれることがあります。その際、学校教育には評価が付き物ですが、その小学校時代の学校という世界の中での評価が全く通用していないと感じることが多くあります。それぞれの人生を歩み、立派になっています。そう考えたときに、小学校のときの評価は何だったのかと思うことはあります。当時、仕事としてしなければならぬから評価していたという面もありますが、その時点でのその子の良い所と悪い所という評価は妥当だったと思いますが、生涯にわたって見通した評価というものは、小学校段階ではできないと思っています。</p> <p>かつて、小学校の卒業式の式辞に「ぞうさん」という童謡を取り上げたことがあります。「ぞうさん ぞうさん おはなが ながいのね」と他の動物から</p>

	<p>鼻が長いことをからかわれている小象が、「そうよ かあさんも ながいのよ」と言って胸を張って答えています。これは、画一性を打破している話と言えます。また、今の小学生がとても好きな歌に「花」という「いろんな花が咲いている」という内容の歌があります。学校教育の中での画一性には、どこかで子どもたちに息抜きをさせる場が必要なのではないかと思います。</p>
市長	<p>「ぞうさん」は、象の鼻が長いことを自慢し、周りが賞賛する歌かと思っていましたが、そうではなかったのですね。</p> <p>いじめについては、首長としては、大変切ないです。何かしてあげられたのではないかと多くの人がありますが、首長が一番思っていることです。私の同級生にも自殺した者もいますが、それは大学生でした。たった中学2年生が自分の死ぬ方法を決めているということには、忸怩たる思いがあります。</p>
教育委員	<p>かつて、合唱団に入っている男子児童から、男のくせに合唱団で歌っているとからかわれ、男は合唱団に入ってはいけないのかという相談を受けたことがあります。その際は、立派な歌手の中には男性がたくさんいることや大学の声楽課程に進む者も多くいることを話しました。</p>
市長	<p>島田バレエの創始者について、彼は日本舞踊に進んだのですが、周りから、女性がするような舞踊を生業に選んだといじめにあっていたそうですが、10年後に会ったとき、一番社会で成功していたのが彼であったという話を聞いたことがあります。</p> <p>昔は、現在の比でないくらい偏見や差別があったが、逆に今ほど情報が開示されていなかったために、昨今の報道にあるような事件もあったものの、世間に認知されていなかっただけなのか、あるいは様々なチャンネルによってサインを発見する関所のようなものがあつたおかげで、死に至るまでに何らかの対応ができたのか、又は子どもの知識が良い意味で情報が少なく、死ぬ方法を知らず、容易に死を意識することがなかったところ、現在は、自殺手段に関する情報も多く、死を意識することが容易になったことが事件の増加につながっているというものなのか、そのあたりがよく分からないでいます。</p>
教育委員	<p>心の教室相談員としての経験の中で、いじめられていることを親には知られたくないという子どもはいます。また、担任に相談することがよいと思うのですが、その担任にも知らせてほしくないという子もいます。担任に知らせると、その先生は何らかの対応をしようとし、そのことによって先生に知らせたことに対する後の仕打ちが怖いから相談できず、結局誰にも相談できずに、そのままいる子どももいます。教師でも親でもない第三者である私に、全然関係のない人だから話を聞いてほしいという子もいます。また、先生がその子に対する一定の好評価を持っていると、先生の期待を裏切れないとか、先生が持つ自分のイメージを壊すのが怖いという子もいます。</p> <p>多様性に関しては、自分の子育ての経験では、勉強もでき、運動もできるバランスの取れた人間に育ててほしいと当時は思っていました。誰よりも勝っているという部分がなくても平均的な子どもが育てやすいのではないかとも思っていました。しかし、普通では面白くなく、特技や何か秀でたものを持っていると強みだと思ふ反面、そのような人が普通に生活していく上では不便である</p>

	<p>のは、理不尽だと思ふことがあります。秀でたものを持っているが、例えばコミュニケーションがとりづらいなど、みんなと同じようにはできないという人間は多くいます。そういう人も社会には必要であつて、みんなが平均的だと社会も発展しないです。</p>
市長	<p>逆の意見になるかもしれませんが、私は、今の社会では、もっと「普通」の人を大事にすべきだと思います。歴史を振り返つたとき、歴史を支えてきたのは1人の天才ではなく大多数の普通の人です。いかに「普通であること」が人間にとって大事なことであるということを早い時期に気付くべきだと思います。一方、二十歳になる前に「自分は普通なのが目標」と言うと、目標のハードルが下がるような気がして、努力しないことだと誤解をする者がいます。そうすることではなく、夢を持って生きながら、人生の終盤でよくよく考えた時に、意外に普通というのは大したものだと思える、そういう普通の人をもう少し社会全体が大事にすべきだと思います。</p> <p>ただ、親としては、できれば苦勞せず生活ができるようにしてやりたいと思ふことは決して悪いことではなく、また、「勉強しなければ苦勞するぞ」と言うことも否定しないですが、いろんな人が存在する社会でないと、社会史も発展しないので、普通の人も含めた多様性を求めるとともに、緊急的ないじめの対策を大綱の中に盛り込みたいと思つているところです。</p>
教育委員	<p>いじめに関しては、岩手の事件について、周りの友だちも薄々気付いていたにもかかわらず何も言わなかつたということがショックでした。最近の子どもと一括りにするのはよくないかもしれませんが、「ごめんなさい」と言う勇気や、けんかした後の気まずい感じを避ける傾向にあるように思ふます。メールやSNSの影響かもしれませんが、人との複雑な感情の移り変わりを全部無視して、相手が傷付くから言わないとか、自分が傷付きたくないから相手に意見したくないという気持ちが多いので、誰かがいじめられていると分かつていても、後からの仕返しが怖いとか誰かがどうにかすればよいという無気力感といったものの積み重ねがあつて、周りの子が薄々知つていても先生や親に誰も言わなかつたということがあるのではないかと思つています。</p> <p>子どものけんかに必ず親が関わつたり、先生が間に入つたりすることが多いです。子どものけんかがあると、先生が間に入らないと仲直りができないということを知つたことがあります。子どもが準備できていないのに謝らされたりするなど、本人たちの気持ちが落ち着かないのに表面上だけ収めることがよくあります。それは、親もよく兄弟げんかの際にすぐに「ごめんなさいと言いなさい」と言うことがあります。人間関係というものには泥臭いものだと思うのですが、そのような生々しく、泥臭いものを全部表面上だけきれいに仲直りすればよい、みんな仲良くすればよいとやつていても、いじめはなくならないと思ふます。道徳の授業で子どもに意見を言わせることも大事ですが、もっと現場で子どもたちがぶつかり合つて、傷ついて、嫌な思いもしなければ人には優しくできないのではないかと思ふます。人権教育は大事だと思ふますが、現場はもっと生々しいので、本を読んでどうこうというより、実体験をしないと正直難しいところはあると思ふます。</p>

<p>市長</p>	<p>多少は擦りむいたり、ケガしたりたした方がよく分かってよいという論に組んでいたときもありますが、最近の報道を見ていると、単に擦りむいてケガするのではなく、いきなり致命傷といったことが起こっています。そういう子どもに「人間はたくましく生きなければならない」と言ってよいのかと思うようになりました。最近では、確かに、人によってはかすり傷が致命傷になるケースも見られています。</p>
<p>教育委員</p>	<p>保護者は、子どもがいじめられていることには敏感で、そのことの相談はあっても、自分の子どもがいじめられていることでの相談はあまり聞きません。親の中には、同じ事象に対しても敏感な者もいれば、それぐらいのことはいじめには当たらないと感じる者もいて、親の対応が大事になってくると思います。最近耳にした事例では、いじめに関して親同士がもめているというもので、親は自分の子どもの言い分を信用し、子どもは親に叱られたくないので自分の不利なことは話さないものなので、いずれの親も自分の子どもがいじめられていると主張し合っているというものでした。このようなとき、第三者の立場で話を聞いてあげられる存在が必要なのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>いじめに関して、現場の先生は、どういう気持ちですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>言いたいけど言えないということはあると思います。例えば、いじめている子を見つけ、叱ると、親が来て、「自分の子どもがいじめたという証拠はあるのか」、「子どもを犯人にしてどうするのか」、「それは自分の子どもをいじめていることになるのではないですか」と言うのです。そういったことは随分前からあります。だから、たくさんいじめの事象は見られるものの、見つけても「止めましょうね」、「そんなことしたらつらいでしょ」と言う程度にとどまり、立ち去れば、すぐまたいじめているという具合です。</p> <p>岩手県の事件では、いじめの事象が5つあったとのことでした。給食の時に教科書が放られ、机に押さえつけられ、消しゴムを投げつけられ、掃除のときにほうきで叩かれた、というものでした。このようなことは、私が若いころは、たくさん起きていました。その時に、見つけて、強く叱り、それを続けることで、徐々に減っていったものです。ところが、今は、例えば、明らかに教科書が放られていたにもかかわらず、目撃したにもかかわらず、誰も知らないと言っているのです。もう1つ困るのは、親が、自分の子どもを信じなければ誰が信じてくれるのかと言って、明らかに誤りであっても、親は信じていると言っているのです。最近では、言い切ることができるようになりました。嘘でも何でも言い切る。とことん言い切るということが起こっています。</p>
<p>市長</p>	<p>そのいじめている側の保護者は、たまたま今はいじめているだけで、まさか明日には我が子がいじめられる側になり、列車に身を投げることになることがあるとは夢にも思っていないようです。そういう意味では、家庭教育というか、人間に想像力が欠如してきたのではないかと考えています。それは、教育の責任が大きいのではないかと考えています。イメージーションが昔の子どもに比べてあまり発達していないです。それは、小さい時から情報があふれ過ぎているからです。今は何でも自分ですぐ調べられるのです。昔は、調べようと思っても図書館に行かなければならないなど手間が掛かることから、分からないこ</p>

	<p>とに対して想像する機会が多くあったものです。</p> <p>自分に悪いことが起きることをイメージできない親が多いのではないのでしょうか。そうでなければ、たまたま今はいじめているだけで、早く指導してやらなければ、自分の子どもがいじられることになると思うはずです。</p>
教育長	<p>ところが、i f、もし、ひょっとしてという感覚については、「〇〇をして、ひょっとして△△になったら、どうしてくれるのか」というクレームの場面では、極端に発達していると言えます。そういった想像力はあるのです。</p>
市長	<p>それは、自己中心的な想像力は持っているということで、全体にとって正義の想像力は欠如しているということですね。例えば、ごみは捨ててはいけないと言う一方で、ドライブしながらジュースの缶を山に投げ捨てる大人がいます。子どもに、どこでもごみを捨ててはいけないと教えると、親が捨てていたと言ひ、なぜ捨てるのかの問いに「誰も見ていないからかまわない」と親が答えたと言ひのです。それを聞いて絶望を感じたものです。</p> <p>そうすると、サインを見逃さないということを経営整備として行政に何ができるかについては、ほぼできないということですか。</p>
教育委員	<p>いじめられているという情報が伝わらない背景の一つに、「いじめられている子どもも悪い」「理由があつていじめられる」という考えがあつて、いじめられて当然だという考えが許されているというか、まだまだ残っています。そのような立場に立つと、いじめを認識しにくいと思います。やはり、いじめている子が100%悪いという視点でなければ、正しくはならないと思います。</p>
市長	<p>それこそ、そういうことは人権教育を通して少しずつでも改めていかなければならないのですね。</p>
教育委員	<p>岩手県の事件では、あれだけいじめられている事実があれば、保護者の間から、いじめられているのではないかと伝わってもよいのではないかと思うところ、それがなかったということは、保護者の中に、「あの子なら当然」という意識があつたのではないかと思えてなりません。</p>
市長	<p>特別な先生であっても、普通の先生、普通の親、普通の地域の人が、何かサインを見逃さない方法を仕組みとして作り、それが効果があるというのであれば、来年すぐにでも実践したいものです。いじめられている事実を誰かが早い段階で知ることができる方法というのはいないものですか。</p>
教育委員	<p>どこの学校でもよく実施しているのは、アンケート調査です。その結果を教員が情報共有し、対応しています。また、予防的な措置として、「いじめはいけないことだ」ということなどを子どもに知ってもらうために、県教委が2年に一度、県下の児童生徒を集め、「いじめゼロ子どもサミット」を開催していますが、そのような会議の市町版を、例えば青少年健全育成市民会議が実施して、いじめに対する施策を検討したり、いじめはいけないという風潮、空気を強めたりするのも現実的な方法の1つの選択肢ではないかと思います。</p>
市長	<p>なかなか、行政がすることは表立ったことにはなりますが、表立ったことをいくらしてもそこに出てこない人は救えません。出てこない人に対する妙案はないですかね。ただ、それを突き詰めると、災害と一緒になくなってしまいます。子</p>

	<p>どもの命は親が守るしかないとか、最終的には自分の命は自分で守るといった個人責任論になってしまいがちです。被害者に原因があるという論は、とんでもない話です。万が一本人に悪い部分があったとしても、自分の命をもって償うほどの悪さではないはずです。</p> <p>表に出てこないサインを見逃さない方法をぜひ考えてほしいです。</p>
教育長	<p>子どもが「親に心配をかけてはいけない」と言うことに理解しがたいものがあります。いじめられていることを知ると親が心配するので何も言わないという感覚が子どもの中に充満しています。</p>
市長	<p>丸亀少女の家に訪問した際に、今一番何がしたいかと聞いたら、母親が欲しいと言ったという話を聞いたことがあります。親として疑問を持たざるを得ないような親であっても、それでも母親が欲しいと言うそうです。子どもにとっては、親は理屈を抜いて大事な存在なのだと思うので、自分が告白して親が困ってはいけないと思ってしまう子どもの気持ちは、私はなんとなく分かるような気がします。</p> <p>そういったことに対する救いの手を差し伸べられることができるなら、大綱が「さぬき市からいじめを一掃します」というたった一言になっても構わないとすら思います。いじめの一掃が実現すれば、日本一の大綱と言ってもよいのではないかと思います。</p> <p>多様性については、意識の深層では、様々な職業に対してそれぞれ序列をつけています。多様性とはいっても、みんなが同じ点数であれば心配しないですが、現実には、例えば農業に対する評価が低く、よほどのことなければ就農しないといったことに見られるように、いろんな可能性を狭めています。</p> <p>単に、とある国立大学に行き、有名大手企業に就職した者が人生の成功者だという世の中が続けば、日本は潰れてしまいます。既に現実の民間企業は、出身大学を重視することはありません。入った大学よりも、今の実力を問う企業とか生き残れないというのは、容易に分かることです。子どもが自信を持って、さぬき市の中小企業であっても夢のある会社、農業、漁業、日本一の左官屋になるとか、そういう気持ちを持ってもらうために学校教育や地域・家庭教育の中ですることがあるなら、行政として環境整備したいです。ただ、それが特定の職業を押し付けるようになってしまうのは困ります。</p> <p>全員が当初の夢がかなうということはないでしょうが、年代それぞれにある程度のあきらめ感というのがあるのですか。子どもの目は輝いていますか。</p>
教育長	<p>子どもは、新しいことができることに張り切っています。</p>
市長	<p>市に職場体験に来る生徒に、将来何かしたいことはあるかと聞いても、前向きな答えが返ってこないことがあります。</p> <p>これまでの学校教育、地域教育、家庭教育、社会教育、人権教育といったことに対する議論は、そのとおりだと思っています。本当の意味での多様性というものを本人はもとより、地域の人、社会が共通認識を持つことができる施策があれば、是非実施したいですし、人権教育の成果を待つまでのいわゆる緊急避難的ないじめや不登校などに対する、効果が期待できる仕組みがあれば、是非盛り込みたいと思っています。</p>

	<p>また、これまでの議論を少し簡単に資料としてまとめています。その全てに触れることはできないかもしれませんが、まずは事務局から資料2の説明をしてください。</p>
事務局	<p>(資料2 さぬき市教育大綱骨子(案)について説明した。)</p>
市長	<p>雑ばくながら、これまでの議論、今回の御意見をちりばめながら作成しています。落ちているものもあれば、ないものも入っているものもあります。それらは、今後、落ちているものは拾い、入らなくてもよいものは削るべきといった議論を進めていきたいと思えます。これはあくまでたたき台と理解していただければと思えます。</p> <p>さらに、大上段にさぬき市の教育大綱がさぬきびとを作るとか、さぬきびとの誇りを作るとか、まちを作るということではなく、あくまで主役はやはり市民一人一人、子ども一人一人であって、保護者もまた主役の一人です。そうして主役の市民が、役割を果たせるような環境づくり、仕組みづくりをさぬき市の教育大綱として定めたいと思っていて、上から目線ではなく、「〇〇をつくるために、〇〇を考えています。主役は皆さんです。是非これに協力をしてください」というニュアンスのものを考えているところです。その部分についても、もう少し議論を詰めさせていただいて、言葉の表現の問題や項目のことなど、まだまだ整理しなければならない箇所があります。ある程度の乱暴さはあっても、市民の人が10分、20分程度目を通して、「これおかしい」「これいいな」と思ってもらえるような形にし、さらにその詳しい説明については、別途に用意するという方法でもよいかもしれません。つまり、作成したものが、国が示す項目ばかりを意識するのではなく、少なくとも市民が目を通し、賛同してくれる内容にしたいので、それぞれの立場でお考えいただきたいと思えます。</p> <p>教育大綱を今と違うことへのきっかけにしたいと思っています。</p> <p>これでほぼ予定の時間を使ったので、今回は資料2の説明にとどめさせていただき、教育委員会の中でも意見交換を進めていただければと思えます。</p> <p>それでは、この辺りで進行を事務局に返します。</p>
閉 会	
教育部長	<p>以上で、平成27年度第2回さぬき市総合教育会議を閉会します。</p>